

コロナの時代における融資戦略・事業戦略 ～猶予期間にするべきこと～



新型コロナウイルス感染症の影響は、我々の想定以上に長引きそうです。道内の企業も、コロナの影響で一時的に赤字や債務超過が発生した企業様も、現在は制度融資等により、一旦は資金繰りも一安心、という段階であるかも知れません。しかしこれらはすべて、一過性の特別な環境下で起きている「**猶予期間**」です。道内企業は、この**猶予期間**にどのような事業戦略を持つべきなのでしょう？

今は受けた融資の返済がなく、楽に資金繰りを回すことができるかもしれません。コロナの影響で一時的に赤字や債務超過が発生したが、元に戻せる見込みがあるかもしれません。ともすれば、コロナに関係なく業績が過渡期にあった企業も、コロナ関連融資の登場で「波に乗って」融資を受けられたかもしれません。しかしこれらはすべて、一過性の特別な環境下で起きている「**猶予期間**」であることを再認識し、**平時に戻るまでの見直し・建て直しを図る必要があります。**

今回は、コロナ発生後に、**100社以上の財務相談**を行っている(株)船井総合研究所の片山孝章氏(財務コンサルタント)を講師に迎えて、道内企業が with コロナ・After コロナをサバイブするための「**“コロナ後の貸し渋り・回収”に備えるために考えるべきこと**」について、お話頂きます。皆様の企業経営の一助として頂ければ幸いです。

尚、今回のセミナーは時節柄、オンライン開催とさせていただきます。PC・スマホから簡単にご覧頂けますので、是非、ご参加ください。

日時:2020年9月4日(金)16:00～17:30
実施方法:オンライン(ZOOM利用)・・・お申し込み後、メールで視聴URLをお送りします。
PC・スマホから簡単にご覧頂けます。
内容:実は”これから”が課題の事業見直し ～経営者がいま知るべき金融機関との付き合い方～

- 1 事例で読み解く ”コロナ後の貸し渋り・回収”に備え準備すべきこと 講師:(株)船井総合研究所 片山孝章
 - (1)with コロナ市況の中、経営者が最も重視すべきは資金繰り(≒キャッシュフロー)である
 - (2)事業見直しの8戦略と融資見直し
 - (3)融資見直し・事業見直し(再編)の具体事例
- 2 長引くコロナの影響から会社を守る為に企業がすべきこと 村松法律事務所 代表弁護士 村松弘康
- 3 講師と皆様とのディスカッション

受講料:無料

参加希望の方は、下記の枠内をご記入の上、そのままFAXをして頂くか、お電話を頂けたら幸いです。

貴社名		
ご芳名		
ご住所		
ご連絡先	【Tel】	【Fax】
Eメールアドレス	@	
個別相談希望	<input type="checkbox"/> 後日弊所による個別相談を希望する	

お問い合わせ:村松法律事務所 担当:小林美緒

060-0002 札幌市中央区北2条西9丁目インファス5階 TEL:011-281-0757 FAX:011-281-0886

執務時間:9時～17時30分

ゲスト講師より



(株)船井総合研究所 片山孝章氏

メガバンクに勤務後、船井総合研究所に中途入社。銀行時代は地方拠点・都市拠点の両方を経験し、創業支援融資～中堅・ミドル企業向け審査・営業を担当。船井総研入社後は、専ら財務コンサルティング、再生支援を担当。旅館、サービス業、製造業、運輸業等の実績多数。コロナ発生後、100件以上の財務相談を行い、短期の資金調達だけでなく、コロナ後を見据えた財務戦略・事業戦略の策定・実行支援を行っている。

道内企業様におかれましても、コロナの影響が甚大である企業様もいらっしゃるかと拝察いたします。中には、コロナ関連で融資を受けて「ふう、資金は安心…」となっておられる経営者もおられるかも知れません。しかし、受けた融資は必ず返済フェーズが到来し、いずれ金融機関も平時に戻ります。コロナの影響をどのように乗り切り、平時に戻るまでの見直し・建て直しに、どのように取り組むべきなのでしょう。

「事業見直しの8戦略」				
No.	CF 資金繰り	B/S 自己資本	P/L 利益	ポイント
1	黒字	資産超過	黒字	最も健全な企業であり、引き続き収益を上げてこの調子で経営を維持、成長したい。
2	黒字	債務超過	黒字	収益があるが体力がない、という状況。一過性の債務超過なのかを見極める必要性。
3	黒字	資産超過	赤字	体力はあるが収益力がなく、だんだん痩せている状況。営業体制の一括見直し等を検証。
4	黒字	債務超過	赤字	体力、収益力共に厳しく何とか資金を食いつないでいる状況。手持ち資産の売却等を検討。
5	赤字	資産超過	黒字	健全だが、投資し過ぎて苦しくなっている可能性がある。投資の再検証のタイミング。
6	赤字	債務超過	黒字	利益は出ているが体力がなく、資金繰りも忙しい。無理な営業になっていないか見直し。
7	赤字	資産超過	赤字	まだ体力があるが、今後痩せて厳しくなる可能性。もう1度資産内容の正確な検証を。
8	赤字	債務超過	赤字	全てが苦しい。今後のEXIT策（M&A、廃業、代表交代）等を検討、ソフトな着地を狙う。

上記の図は、貸借対照表(B/S)、損益計算書(P/L)、そして資金繰り(CF)が、それぞれどのような状況にあるかを示した図と、その状況に応じて取らねばならない基本戦略です。もちろんどの企業でも、しっかりと資金繰りを回し、自己資本を蓄積し、毎年利益が出ている状況(1)を目指したいものです。

しかし、コロナ市況の発生に伴いこれまで1のポジションにいた企業が3の状況に落ち込み、体力はあるが赤字が継続してしまうと厳しい、という局面を迎えるかもしれません。

そこでやみくもに「とにかく売上の回復だ！」と走るのではなく、あと何ヶ月かかれば、事業は今まで通り1の状況に戻れそうなのか、そもそも1に戻るためには損益がネックなので、売上を急上昇させなくとも、減収した分費用を削減する動きを取った方が良いのか…といったことを、1度呼吸を落ち着けて検証する必要があります。

今回のセミナーでは「事業見直しの8戦略」をベースに財務戦略の組み立て、融資の見直しを中心にお話しさせていただきます。コロナ後に向けた経営改善・経営再建というゴールに向かうための羅針盤として頂ければ幸いです。